



金子謙一さん (市川自然博物館学芸員)

いろいろな分野を 通しての 自然の楽しみ方

千葉 石井先生は生徒にどのような自然の楽しみを教えているのですか。

石井 私は授業の最初に身近な自然の話題を必ずします。今まではしゃべったり、実物を持ってきたりしていたのですが、これを残した方がいいと思ひまして、図や調査データなど全部手書きの『季節の話題』という印刷物を生徒に配っています。載っているのは全部歩いて5分、10分で見ることのできる話題だけ。私は『先生の言っていることは本当かな。じゃあ僕も見たいよ』と思って見に行ってくれる生徒を期待したいんです。自分で歩いて本当かどうか確かめられる場所を残すことが一番大事だと思います。

千葉 それはすごいですね。それにこれは大きな財産になりますね。生徒の反応はどうですか。

石井 1クラスで4、5人は行く生徒がいます。野鳥などは10回行って9回失敗するかもしれないけれど、実際



千葉光行市長

見た時の感動はすごいですよ。自然の仕組みを理解させようとする、やはり表に連れだしたほうがいいと思ひますが、金子さんはどうですか。

金子 それには段階もあると思ひんです。例えば小さな子供と一緒に花壇で水やりをするなかでミミズやだんご虫が出てきたり、花が咲いたり、咲いた花が枯れてしまったりいろいろな経験ができるから最初はそこからいいような気がします。

千葉 楽しみ方にはいろんな楽しみ方、またそれぞれの年代層によってもいろんなやり方がありますね。

金子 例えば文学を通しての花と緑というのもひとつです。一度本当に後悔している体験がありまして、博物館に『やまふようって何ですか』と問い合わせの電話があって、調べても結局わからなかったのです。しばらくしてハタと『しらねあおい』だと気がつきました。文学から植物を楽しむかたもいらっしやるわけですから、植物図鑑に載っている正式な名称だけ知っていてもだめだし、文学の方からの問いかけに対応できることでお互いの距離が近くなる。生物として植物を見るかたとか文学を通して見たり、絵の対象

として見たりするかたとか。万葉植物園でも植物の説明は僕ができますが、逆に来てくださった市民のかたに万葉集を教えていただくとかそういうこともできると思ひんです。

千葉 そうするとまた違った楽しみ方ができますね。

石井 やり方によってはいろんなことで授業もできますし、やはり都市のなかでもそういう自然と触れ合える場所と機会がたくさんあったほうがいいですね。

市川特有の 自然とこれから

千葉 市川特有の自然についてはどうですか。

石井 市川を代表する自然といえば湿地が挙げられます。行徳の野鳥の楽園のあたりが昔の市川の湿地の様子を今に残しているところですね。

金子 市川は水のまち。すぐ水と緑とあってしましますが、自然の認識としては水のまちでその一部として緑がついてくるという言い方がぴったりきますね。

千葉 そうだね。それに川のまちとも言えますね。市川というくらいだから。

石井 市川には長い時間を経て人々の暮らしのなかで残りえた自然がまだ少し残っています。そういう過去において努力をした人々のことをこれからも市民の皆さんが語りついでいってほしいと思います。そうしなければ、どんどん忘れられてしまいます。当時は農民や漁民のかたが林や干潟の自然を残



万葉植物園
所在地:市川市大野町2-1857 電話:337-9866
交通:JR武蔵野線市川大野駅から徒歩5分



石井信義さん (市川高等学校理科教諭)

したので、これからは農民・漁民のかたとうまく話が通じる自然保護をしていかなければいけないですね。
千葉 三番瀬についてもそうですね。それに大町の動植物園に谷津をあのように残したということではすばらしい遺産が市川市に残ったし、じゅん菜池も、万葉植物園もわかりですね。私たちはこれから、この辺りを守っていく、また新たに創造してつくっていくかなければ、守るばかりではなく作っていくことが大事なのだと思います。今日は本当にありがとうございました。